平成22年７月27日

各　　位

会 社 名　太 洋 工 業 株 式 会 社
代表者名　代表取締役社長　細 江 美 則
（ＪＡＳＤＡＱ・コード：６６６３）
問合せ先
役職・氏名　取締役管理本部長 兼経営企画部長　阪 口 豊 彦
電　　話　０７３－４３１－６３１１

平成22年12月期　第２四半期累計期間及び通期 業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、本日開催の取締役会において、平成22年２月３日付当社「平成21年12月期　決算短信」において発表いたしました平成22年12月期（平成21年12月21日～平成22年12月20日）の業績予想を下記のとおり修正することを決議いたしましたのでお知らせいたします。

記

１．平成22年12月期　連結業績予想の修正等

(1) 第２四半期累計期間（平成21年12月21日～平成22年６月20日）

	売上高	営業損益	経常損益	四半期純損益	１株当たり四半期純損益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円　銭
前回予想（Ａ）	2,085	△66	△68	△87	△14.94
今回修正（Ｂ）	1,934	7	30	15	2.69
増減額（Ｂ－Ａ）	△151	74	98	103	－
増減率（％）	△7.2	－	－	－	－
ご参考：前期第２四半期実績（平成21年12月期第２四半期）	1,629	△206	△215	△281	△48.12

(2) 第２四半期累計期間業績予想の修正理由

売上高については、主力事業である電子基板等事業において、一眼レフカメラの買い替え需要を背景に一部のセットメーカー向けの販売は堅調に推移したものの、ＦＰＣメーカーにおける内製化の推進等の影響を受け、当初想定していた計画水準に達しなかったことから、ＦＰＣメーカー向け及びセットメーカー向けの販売はともに当初予想を下回る見込みであります。その結果、当第２四半期累計期間の連結売上高は、基板検査機事業において検査機の販売が概ね計画どおり推移したこと等により、前年同四半期を305百万円上回るものの、当初予想を151百万円下回る1,934百万円（前年同四半期比18.7％増）となる見込みであります。

営業損益については、内製化推進等による売上高外注加工費率の低下、及び材料投入量の見直し等による売上高材料費率の低下等による売上総利益率の改善から、当初予想より74百万円改善の７百万円の営業利益（前年同四半期は206百万円の営業損失）となる見込みであります。

経常損益については、前述の理由に加えて、雇用調整助成金等の収入により、当初予想より98百万円改善の30百万円の経常利益（同215百万円の経常損失）となる見込みであります。

四半期純損益については、経常損益と同様の理由により、当初予想より103百万円改善の15百万円の四半期純利益（同281百万円の四半期純損失）となる見込みであります。

(3) 通期（平成21年12月21日～平成22年12月20日）

	売　上　高	営業損益	経常損益	当期純損益	１株当たり当期純損益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円　銭
前回予想（Ａ）	4,450	12	10	△33	△5.74
今回修正（Ｂ）	4,134	12	44	7	1.21
増減額（Ｂ－Ａ）	△316	△０	34	40	－
増減率（％）	△7.1	△3.6	332.6	－	－
ご参考：前期実績（平成21年12月期）	3,363	△440	△426	△569	△97.35

(4) 通期業績予想の修正理由

売上高については、引き続き当社グループの主力事業である電子基板等事業において、携帯電話等デジタル機器の需要増を背景として、当社の強みである顧客ニーズに合った短納期での製造及びワンストップ生産体制を前面にアピールすることによりＦＰＣ試作を中心とした受注獲得を基本に、幅広い厚みのある顧客ネットワークを活かした仕入販売ビジネスを絡めた積極的な営業展開を図ることで、更なる収益の向上に傾注いたします。しかしながら、依然厳しい雇用・所得環境が続くなかで、内需・外需とも先行きに対する不安要素がなお払拭しきれない状況にあることから、電子基板等事業において市場全体の試作需要低迷による海外を含めた企業との競合の激化及び受注単価の更なる下落等を想定し、当初予想を316百万円下回る4,134百万円（前年同期比22.9％増）を見込んでおります。

営業損益については、引き続き利益を確実に確保できるようにあらゆるコスト削減等の不断の努力を続けていくことにより、概ね当初予想どおりの12百万円の営業利益（前年同期は440百万円の営業損失）を見込んでおります。

経常損益については、前述の理由に加えて、雇用調整助成金及び製品開発等支援補助金等の収入により、当初予想を34百万円上回る44百万円の経常利益（同426百万円の経常損失）を見込んでおります。

当期純損益については、経常損益と同様の理由により、当初予想より40百万円改善の７百万円の当期純利益（同569百万円の当期純損失）を見込んでおります。

２．平成22年12月期　個別業績予想の修正等

(1) 第２四半期累計期間（平成21年12月21日～平成22年６月20日）

	売　上　高	営業損益	経常損益	四半期純損失	１株当たり四半期純損失
	百万円	百万円	百万円	百万円	円　銭
前回予想（Ａ）	1,993	△41	△48	△66	△11.29
今回修正（Ｂ）	1,848	9	34	△４	△0.74
増減額（Ｂ－Ａ）	△145	50	82	61	－
増減率（％）	△7.3	－	－	－	－
ご参考：前期第２四半期実績（平成21年12月期第２四半期）	1,629	△170	△171	△245	△41.96

(2) 第２四半期累計期間業績予想の修正理由

前記「１．平成22年12月期　連結業績予想の修正等　(2) 第２四半期累計期間業績予想の修正理由」と同様の理由により、売上高は当初予想を145百万円下回る1,848百万円（前年同四半期比13.4％増）、営業損益は当初予想より50百万円改善の９百万円の営業利益（前年同四半期は170百万円の営業損失）、経常損益は当初予想より82百万円改善の34百万円の経常利益（同171百万円の経常損失）となる見込みであります。また、四半期純損失は関係会社への貸付金に対し、貸付先の財政状態及び経営成績等を精査した結果、貸倒引当金を計上することとなったものの、当初予想より61百万円縮小の４百万円（同245百万円の四半期純損失）となる見込みであります。

(3) 通期（平成21年12月21日～平成22年12月20日）

	売　上　高	営業損益	経常損益	当期純損失	１株当たり当期純損失
	百万円	百万円	百万円	百万円	円　銭
前回予想（Ａ）	4,273	35	△27	△58	△10.08
今回修正（Ｂ）	3,902	56	95	△10	△1.74
増減額（Ｂ－Ａ）	△370	20	122	48	－
増減率（％）	△8.7	57.7	－	－	－
ご参考：前期実績（平成21年12月期）	3,313	△332	△310	△592	△101.26

(4) 通期業績予想の修正理由

前記「１．平成22年12月期　連結業績予想の修正等　(4) 通期業績予想の修正理由」と同様の理由により、売上高は当初予想を370百万円下回る3,902百万円（前年同期比17.8%増）、営業損益は当初予想を20百万円上回る56百万円の営業利益（前年同期は332百万円の営業損失）、経常損益は当初予想より122百万円改善の95百万円の経常利益（同310百万円の経常損失）をそれぞれ見込んでおります。また、当期純損失は関係会社への貸付金に対し、貸付先の財政状態及び経営成績等を精査した結果、貸倒引当金を計上することとなったものの、当初予想より48百万円縮小の10百万円（同592百万円の当期純損失）を見込んでおります。

※本業績予想等については、現時点で入手可能な情報及び合理的と考える一定の前提に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化等の様々な要因により、予想数値と大きく異なる可能性があります。

以　上